
2004年3月期本決算説明会資料

スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社



2004年5月19日

SPARX Asset Management Co., Ltd.

この資料は、投資家への情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の有価証券の取引を推奨する目的、または特定の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。

数値、情報については、正確性を期すべく、万全の配慮をしておりますが、内部資料に基づく未監査のものも含まれますので、その正確性、完全性、情報の妥当性等を保証するものではなく、当該データ、意見等を使用した結果についてもなんら補償するものではありません。

また、ここに記載された内容が事前連絡なしに変更されることもあります。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

本資料における数値は全て連結ベースの数値を使用している。

本日のご説明内容

- 1 . 2004年3月期決算概要（12ヶ月通期）
- 2 . 今後のスパークス・グループについて

2004年3月期本決算の総括

- ◆ 成功報酬大幅増により営業収益、利益とも過去最高を更新。
- ◆ 年度後半より資金流入が堅調に推移し、運用資産残高は4月末速報値で6,916億円となる。
- ◆ キャッシュを経営資源として、今後のビジネス展開を模索する局面に到達。

連結本決算（12ヶ月通期）ハイライト



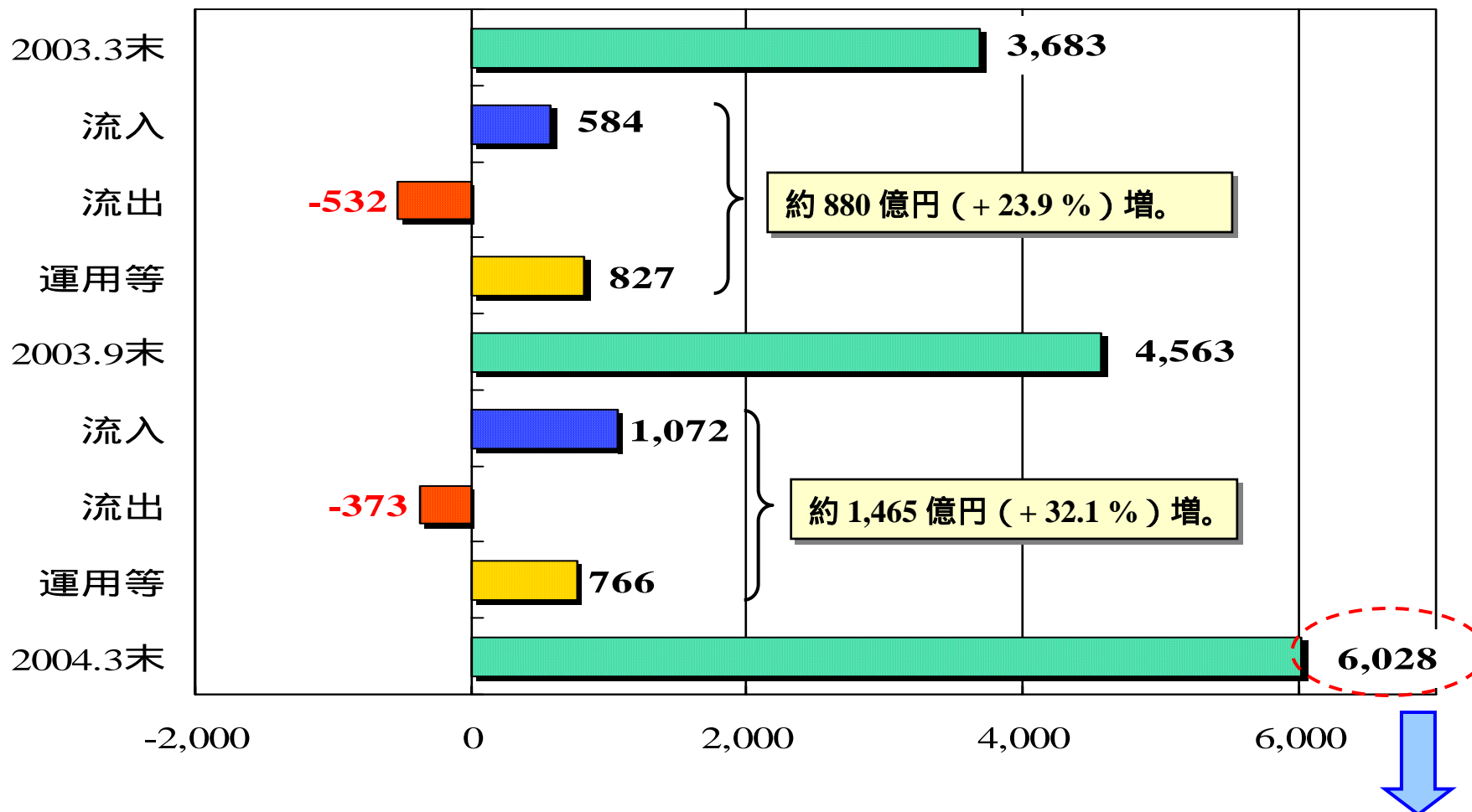
		2003年3月期	2004年3月期	
		通期 (2002/4 ~ 2003/3)	通期 (2003/4 ~ 2004/3)	前年比
運用資産残高 (AUM) 平残	(億円)	3,839	4,597	+ 19.7 %
営業収益	(百万円)	4,899	11,117	+ 126.9 %
営業費用・一般管理費	(百万円)	3,856	4,429	+14.8 %
営業利益	(百万円)	1,042	6,687	+ 541.3 %
経常利益	(百万円)	1,017	6,678	+ 556.3 %
当期純利益	(百万円)	560	3,380	+ 503.5 %
役職員数	(人)	93	99	+6.5 %
T O P I X		788	1,179	+ 49.6 %

日本株式一般や
中小型がAUMの
伸びを牽引

営業収益
営業利益
経常利益
当期純利益
すべてにおいて
過去最高を更新

(注) 上記表中の数字は「前年比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年比」は小数点以下第2位を四捨五入して表示をしている。

(単位：億円)



(注) 数字は単位未満を切り捨ててで表示している。

2004年4月 (速報) AUM 6,916 億円 達成

2004年3月期 戦略別 資金流出入



(単位：億円)

	2003/3末	流入	流出	運用等	2003/9末	流入	流出	運用等	2004/3末
日本株式 中小型	447	232	-46	184	818	257	-54	226	1,246
日本株式 一般	667	128	-16	273	1,053	292	-41	304	1,608
日本株式 ロング・ショート	1,917	149	-468	227	1,826	463	-263	184	2,211
日本株式 集中	238	2	-1	67	307	0	-8	47	346
未公開株式	18	0	0	2	20	44	0	0	66
バリュウ・クリエーション	239	72	0	72	384	0	0	4	388
ファンド・オブ・ファンズ	153	0	0	0	153	13	-4	0	161
AUM未残(合計)	3,683	584	-532	827	4,563	1,072	-373	766	6,028

純流出入 + 52億円
(上半期)

+

純流出入 + 698億円
(下半期)



純流出入(年間)
+ 750億円

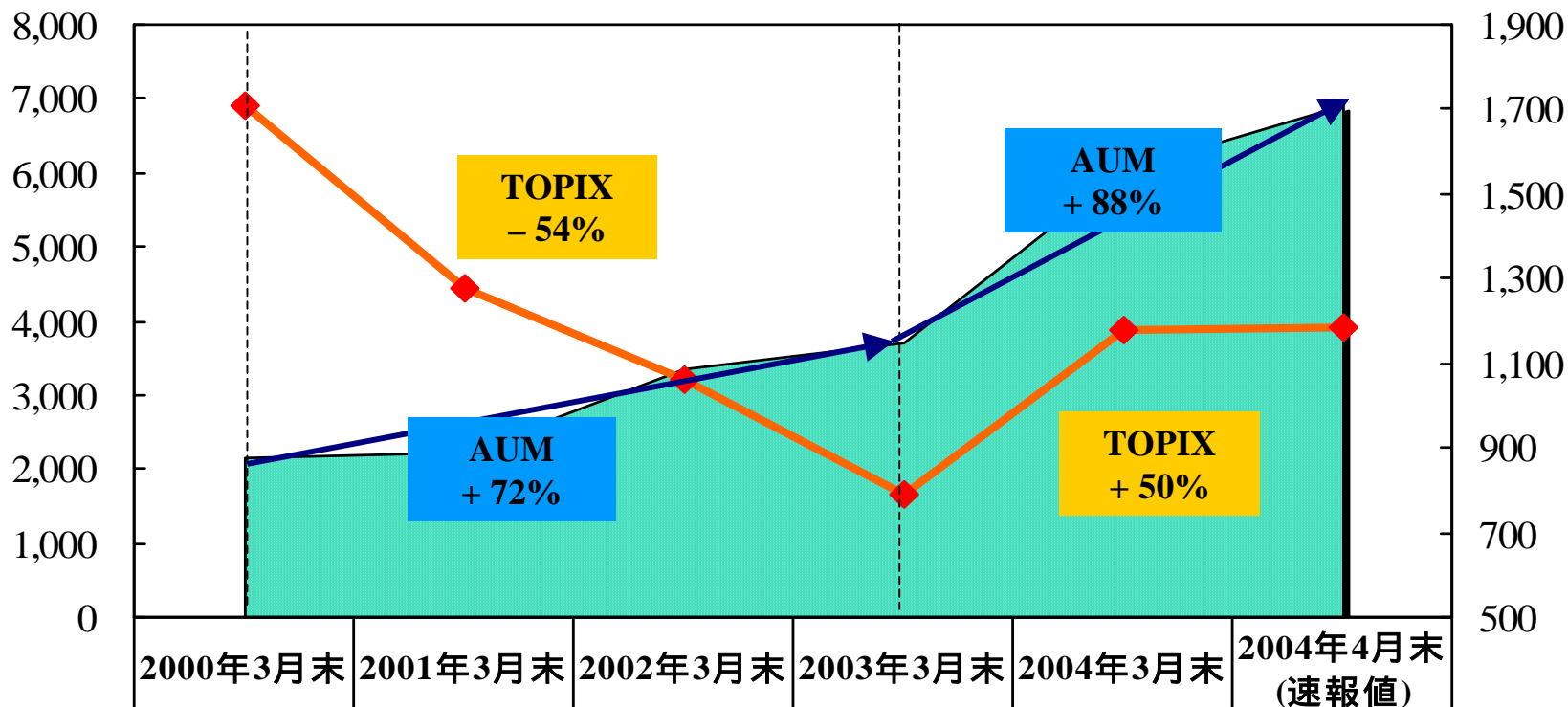
(注) 上記表中の数字は単位未満を切り捨てて表示している。したがって、表中の「0」は単位未満の数字を意味している。

運用資産残高 (AUM) の推移



運用資産残高
(単位：億円)

TOPIX指数
(単位：ポイント)



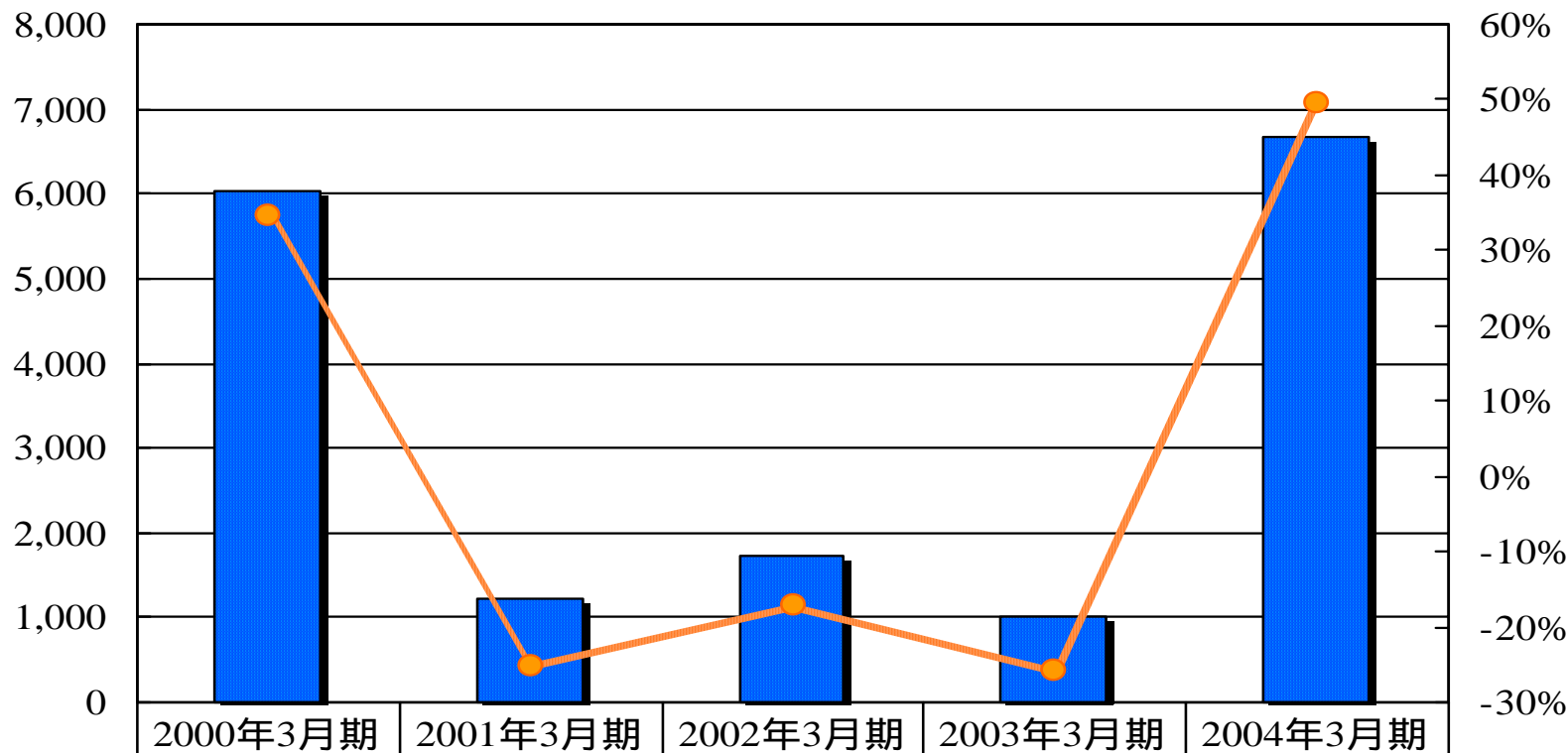
AUM末残 (左軸)	2,141	2,217	3,357	3,683	6,028	6,916
TOPIX (右軸)	1,706	1,277	1,060	788	1,179	1,186



海外投資家比率 (属性)	68 %	62 %	59 %	52 %	60 %
--------------	------	------	------	------	------

(注) 上記表中の「AUM末残」は単位未満を切り捨て、「TOPIX」および「海外投資家比率 (属性)」は小数点以下第1位を四捨五入して表示している。また「AUM末残」および「海外投資家比率 (属性)」の数値は、社内概算値を参考値として表示しており、正確性を保証するものではない。

経常利益
(単位：百万円)

TOPIX変化率



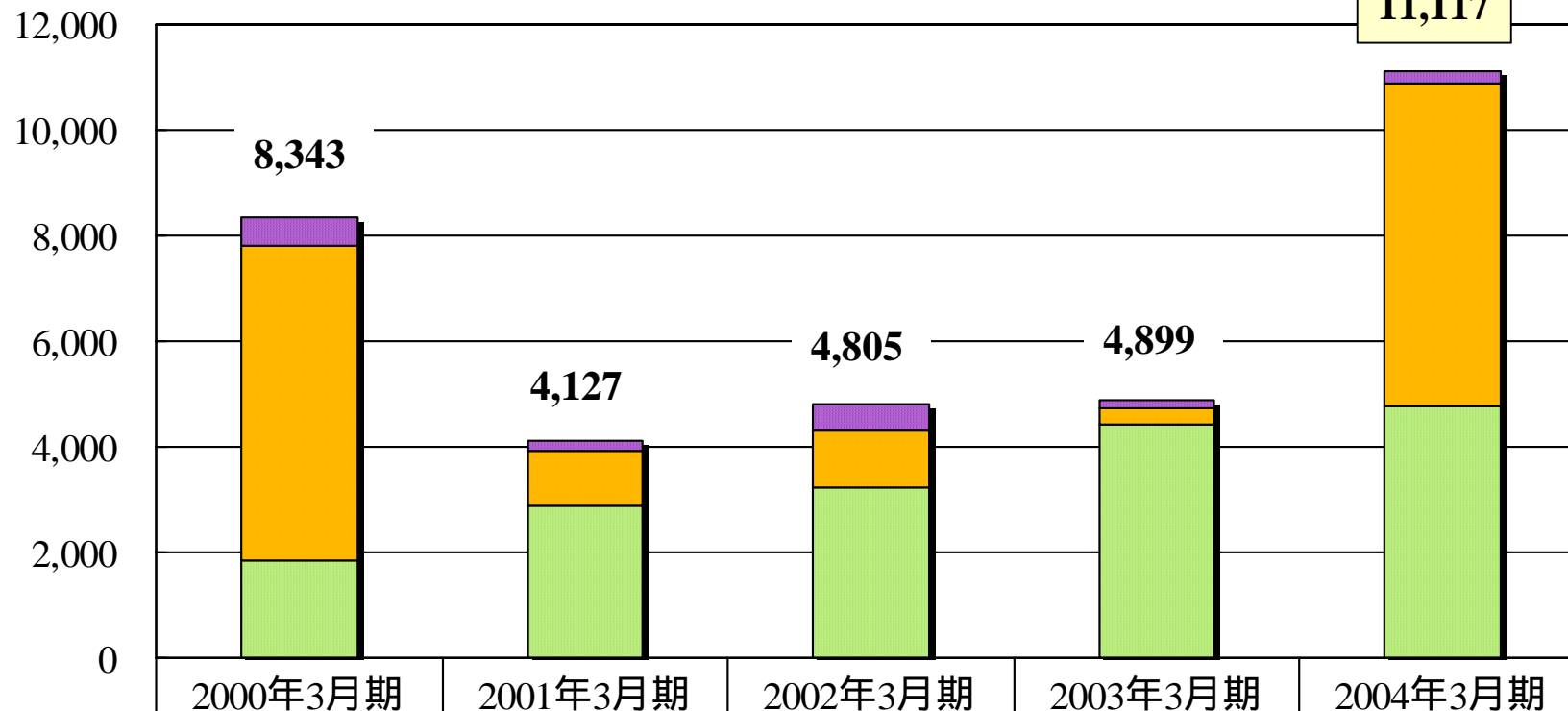
 経常利益	6,045	1,220	1,727	1,017	6,678
 TOPIX変化率	34.6%	-25.1%	-17.0%	-25.7%	49.6%

(注) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。

営業収益の推移



(単位：百万円)



■ その他収益	535	218	487	164	244
■ 成功報酬	5,964	1,009	1,092	294	6,118
■ 残高報酬	1,843	2,898	3,225	4,441	4,753

(注) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。

営業収益（12ヶ月通期）内訳



		2003年3月期	2004年3月期	
		通期	通期	前年比
残高報酬	(百万円)	4,441	4,753	+7.0%
AUM 平残	(億円)	3,839	4,597	+19.7%
AUM 末残	(億円)	3,683	6,028	+63.7%
料率 (手数料控除後)	(%)	0.96	0.89	-0.07
成功報酬	(百万円)	294	6,118	+1980.0%
AUM 付帯比率	(%)	72	58	-14
TOPIX上昇率 (期末比)	(%)	-25.7	49.6	n.a.
その他 営業収益	(百万円)	164	244	+49.1%
営業収益 合計	(百万円)	4,899	11,117	+126.9%

株式一般、中小型株がAUMの伸びを牽引する一方、残高報酬料率、成功報酬付帯比率が低下

一方、代替投資型運用戦略（ロング・ショート、バリュー・クリエーション）を中心に成功報酬の受領額が大幅増

(注) 上記表中の数字は「前年比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年比」は小数点以下第2位を四捨五入して表示をしているが、「料率（手数料控除後）」、「AUM付帯比率」の「前年比」は、増減幅を表示している。

戦略別 成功報酬の内訳



	2003年3月期（通期）			2004年3月期（通期）		
	成功報酬 （百万円）	AUM		成功報酬 （百万円）	AUM	
		平残 （億円）	構成比		平残 （億円）	構成比
日本株式 中小型	-	573	14.9 %	21	803	17.5 %
日本株式 一般	6	634	16.5 %	60	1,088	23.7 %
日本株式 ロング・ショート	287	2,105	54.8 %	4,601	1,888	41.1 %
日本株式 集中	-	265	6.9 %	326	285	6.2 %
バリュ・クリエーション	-	60	1.6 %	1,012	336	7.3 %
未公開株式	-	39	1.1 %	-	35	0.7 %
ファンド・オブ・ファンズ	0	160	4.2 %	96	158	3.5 %
合計	294	3,839	100 %	6,118	4,597	100 %

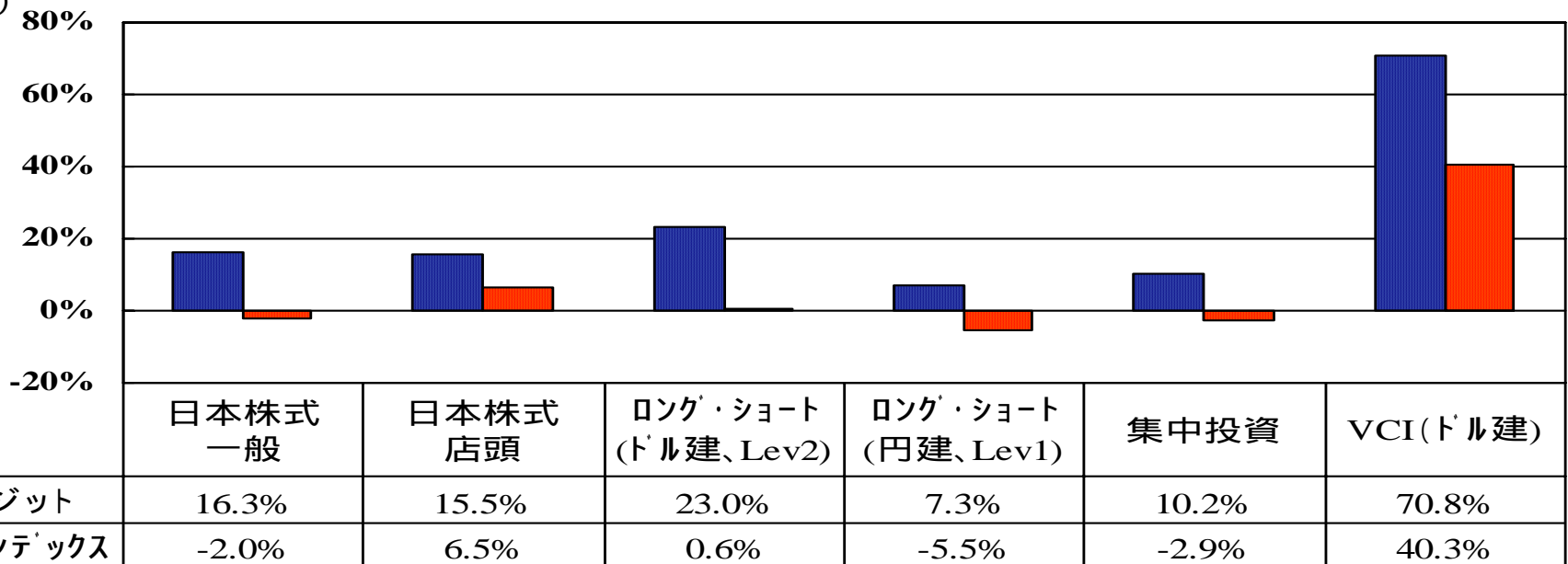
（注）上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。したがって、表中の「0」は単位未満の数字を意味している。また、AUMの「構成比」は小数点以下第2位を四捨五入し表示しているが、合計が100%となるように微調整している。

主要投資戦略 計測開始日来自リターン



(コンポジット計測開始日～2004年3月末)

(年率換算)



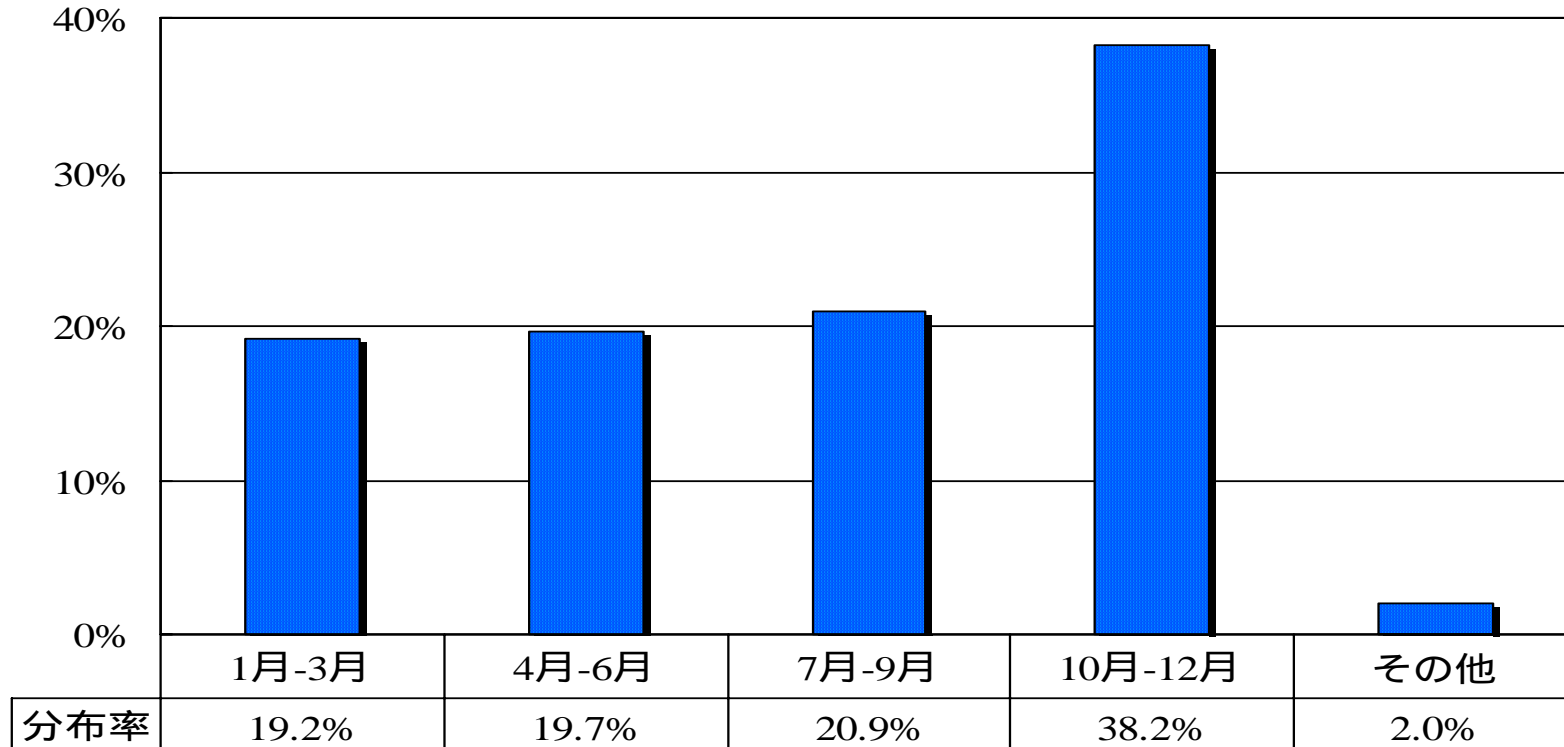
参考インデックス	TOPIX配当込	日経JASDAQ 平均	TOPIX配当込 (ドルヘッジ)	TOPIX配当込	TOPIX配当込	TOPIX配当込 (ドルヘッジ)
計測開始日	97年5月	97年4月	97年8月	2000年6月	99年7月	2003年2月
コンポジット・リタンの ポリティティ(年率)	24.7%	27.4%	13.0%	6.7%	26.4%	n.a.

(注1) 上記表中の数字は、当社で運用する主要な投資戦略のコンポジット・リターンを社内資料に基づいて作成した。表中の「参考インデックス」とは、相对比较のために便宜的に採用した指標であり、顧客から要請されているベンチマークとは限らない。

(注2) リターン算出基準は次の通り。「日本株式一般」「日本株式店頭」「ロング・ショート(ドル建、Lev2)」「集中投資」については、修正ディット法・運用関連手数料控除前、「ロング・ショート(円建、Lev1)」は基準価格法・運用手数料控除後、「VCI(ドル建)」は内部収益率・運用手数料控除前。また、上記数字は小数点以下第2位は四捨五入して表示している。

(注3) 「TOPIX配当込(ドルヘッジ)」は1ヶ月為替フォワード・レートで完全にヘッジされた場合のドル建のリターンを計算している。

運用資産残高（2004年3月末）に占める割合



(注1) 上記表中の「運用資産残高（2004年3月末）に占める割合」では、当社が運用する全てのファンド（「ファンド」とは、投資信託あるいは投資一任口座を指す。以下同様）を、成功報酬の基準日および支払いが確定する月ごとに分類し、その上で、当社の2004年3月末の運用資産残高に占める割合をグラフ化した。その際、複数の支払時期があるファンドについては、該当ファンドの残高全てを各月に計上、各月に重複して計上している分は、運用資産残高合計にも加算、成功報酬がついていないファンドは、運用資産残高の合計から除外、という調整を行い、上記割合を算出している。尚、上記の％表示は、小数点以下第2位を四捨五入し、表示している。

(注2) 上記の数字は、社内データおよび当社資料による概算値であり、正確性を保証するものではない。

経費 内訳 (主要費用項目)



	2003年3月期	2004年3月期	
	通期 (百万円)	通期 (百万円)	前年比
営業費用・一般管理費 合計	3,856	4,429	+ 14.8 %
営業費用 合計	1,072	1,098	+ 2.4 %
支払手数料	806	804	- 0.3 %
調査費	78	123	+ 58.0 %
委託計算費	98	78	- 20.0 %
一般管理費 合計	2,784	3,331	+ 19.6 %
人件費 合計 (派遣社員等を含む)	1,534	1,960	+ 27.7 %
不動産賃借料	288	290	+ 0.7 %
事務委託費	200	217	+ 8.4 %
旅費交通費	207	229	+ 10.5 %
固定資産原価償却費	141	167	+ 17.8 %

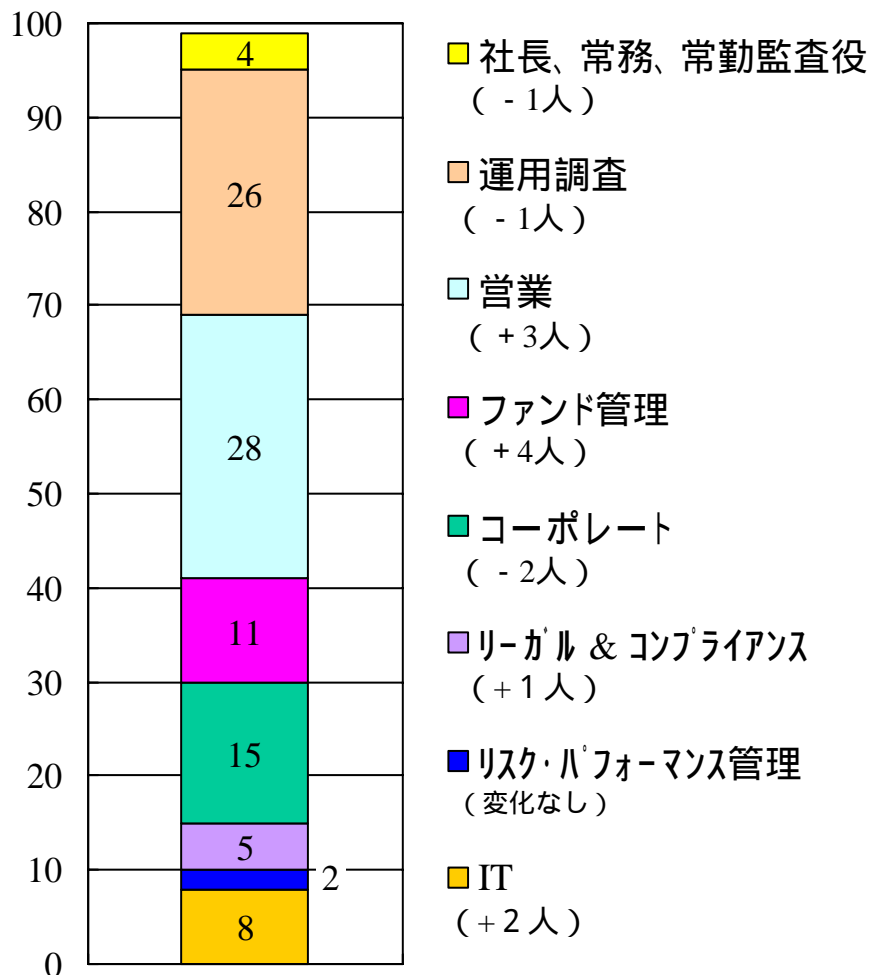
公募投信残高
(350億 280億)
減少による支払
手数料の低下

変動費である実
績賞与の増加が
主因

オフィス拡張に
伴う増加

(注) 上記表中では主要な費用項目を示しており、「前年比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年比」は小数点以下第2位を四捨五入して表示をしている。

グループ役職員合計（2004年3月末）： 99人 対前年比 +6人（+6.5%）



（注）括弧内の人数は、対前年比の増減人員数を示している。

	2003年3月期	2004年3月期	
	通期 （百万円）	通期 （百万円）	前年比
人件費 合計	1,534	1,960	+ 27.7 %
年俸 （役職員分）	1,125	1,192	+ 6.0 %
実績賞与 （役職員分）	386	718	+ 86.0 %
雑給 （派遣社員等）	23	49	+ 114.7 %
平均 役職員数	86 人	96 人	+ 11.6 %

（注1）表中の数字は「前年比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年比」は小数点以下第2位を四捨五入して表示している。

（注2）「平均役職員数」は前年期末と当該期末における役職員数（派遣社員等を含まない）の単純平均で算出している。

残高報酬（手数料控除後）のみで確保できる経常的な利益は、どのくらいか？

		2002年3月期 通期	2003年3月期 通期	2004年3月期 通期	前年比
AUM 平残	(億円)	2,660	3,839	4,597	+ 19.7 %
残高報酬料率 (手数料控除後)	(%)	1.02	0.96	0.89	- 0.07
残高報酬（年間割戻） (手数料控除後)	(百万円)	2,713	3,686	4,091	+ 11.0 %
経常的経費	(百万円)	2,101	2,663	2,871	+ 7.8 %
基礎収益	(百万円)	612	1,022	1,219	+ 19.3 %
役職員数	(人)	78	93	99	+ 6人

成功報酬がゼロでも出せる利益の幅。

会社としての基礎体力が継続して向上していることを示す。

(注1) 上記表中数字は単位未満を切り捨て表示している。「残高報酬」は概算値として、残高報酬料率からの年間割戻額を表示している。

(注2) 「経常的経費」とは 支払手数料全額、実績賞与、その他特殊要因により生じた費用等の合計を営業費用・一般管理費の合計から控除した費用の合計を指している。

貸借対照表 概要



	2003年3月末 (百万円)	2004年3月末 (百万円)	前年比	
資産の部 (合計)	7,989	14,623	+ 83.0 %	
流動資産	3,977	9,530	+ 139.6 %	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> キャッシュ・70-の積上げによる現預金、短期換金可能資産の増加 </div>
現預金	約37億の現金同等物 { 2,698	約90億の現金同等物 { 6,964	+ 158.1 %	
短期換金可能資産	{ 1,010	{ 2,010	+ 98.9 %	
固定資産	4,011	5,092	+ 26.9 %	
投資有価証券	2,718	4,140	+ 52.3 %	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 保有有価証券の上昇および新規投資 </div>
負債の部 (合計)	367	4,002	+ 989.2 %	
未払法人税等	-	3,017	n.a.	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 大幅な利益計上による法人税支払い増 </div>
資本の部 (合計)	7,621	10,620	+ 39.4 %	
資本金・資本準備金	2,535	2,745	+ 8.3 %	
連結剰余金	5,247	8,387	+ 59.8 %	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 保有有価証券の上昇 </div>
有価証券評価差額金	- 173	108	n.a.	
自己株式	- 4	- 503	+ 11,953.7 %	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 約5億円の自己株式の市場買付を実施 </div>

(注) 上記表中の数字は、「前年比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年比」は、小数点第1位以下を四捨五入して表示をしている。

スパークス・グループの中期経営目標：

「アジア投資における世界最強のブランドを構築する」

〔 世界最強ブランドの構築に向けた更なるビジネス展開 〕

1. 投資信託ビジネスの拡充

(1) 「スパークス・アクティブ・ジャパン」(2004年4月27日設定)

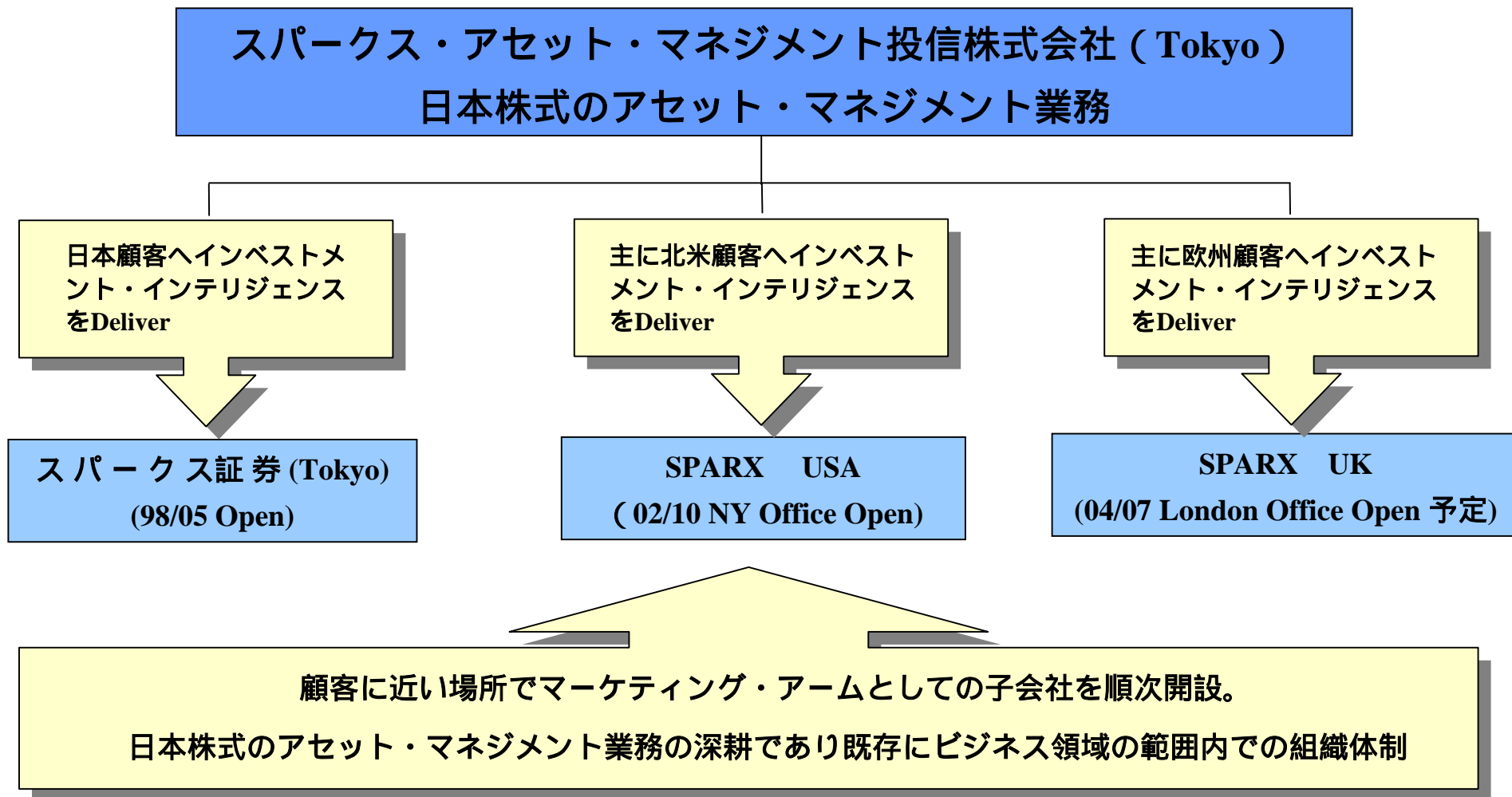
(2) 「スパークス・ジャパン・オープン」(2004年5月20日設定)

2. アジア地域のヘッジファンドを組み入れた

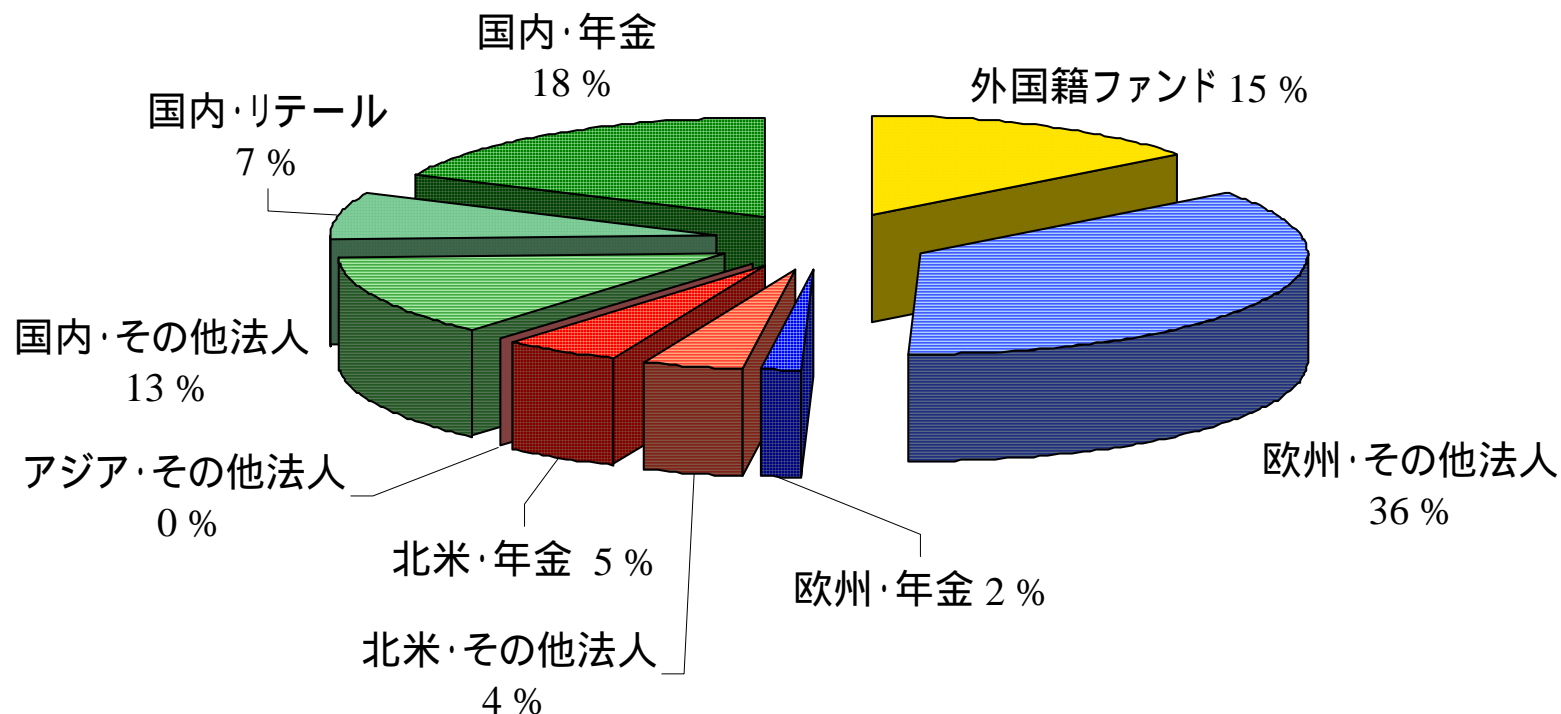
「スパークス・アジア・パシフィック・ファンド・オブ・ファンズ」への注力

3. アジア地域への拠点展開を検討

現在の組織体制・ビジネス領域



2004年3月末（社内推定概算値）



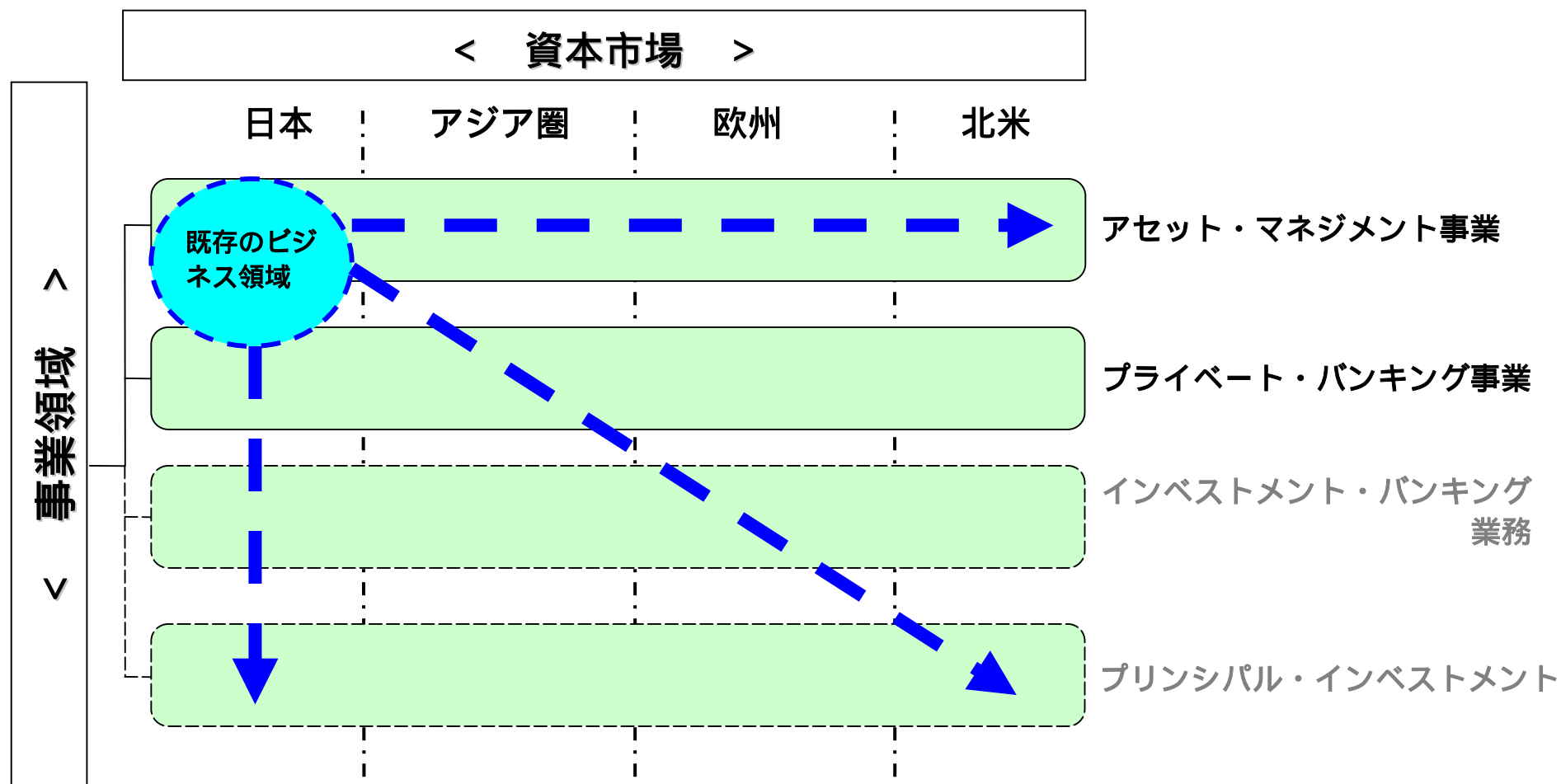
（注1）スパークス・グループが設定している外国籍のファンドで、かつ、最終顧客の属性が複数に及ぶものは「外国籍ファンド」として分類している。

（注2）その他のスパークス・グループが設定しているファンドおよび投資信託（外国籍、国内籍）、スパークス・アセット・マネジメント投信が締結している投資顧問契約に関しては、推定される最終顧客の属性に応じて「その他法人」「年金」「リテール」のいずれかに分類している。

（注3）上記数字は小数点第1位以下を四捨五入して表示している。

（注4）上記の顧客分類に基づく数値は、社内データおよび当社資料による概算推定値であり、正確性を保証するものではない。

日本の株式市場を基軸としたアセット・マネジメント事業から、世界の資本市場、全ての投資機会を対象に見据えた「インベストメント・カンパニー」への飛躍を目指す。



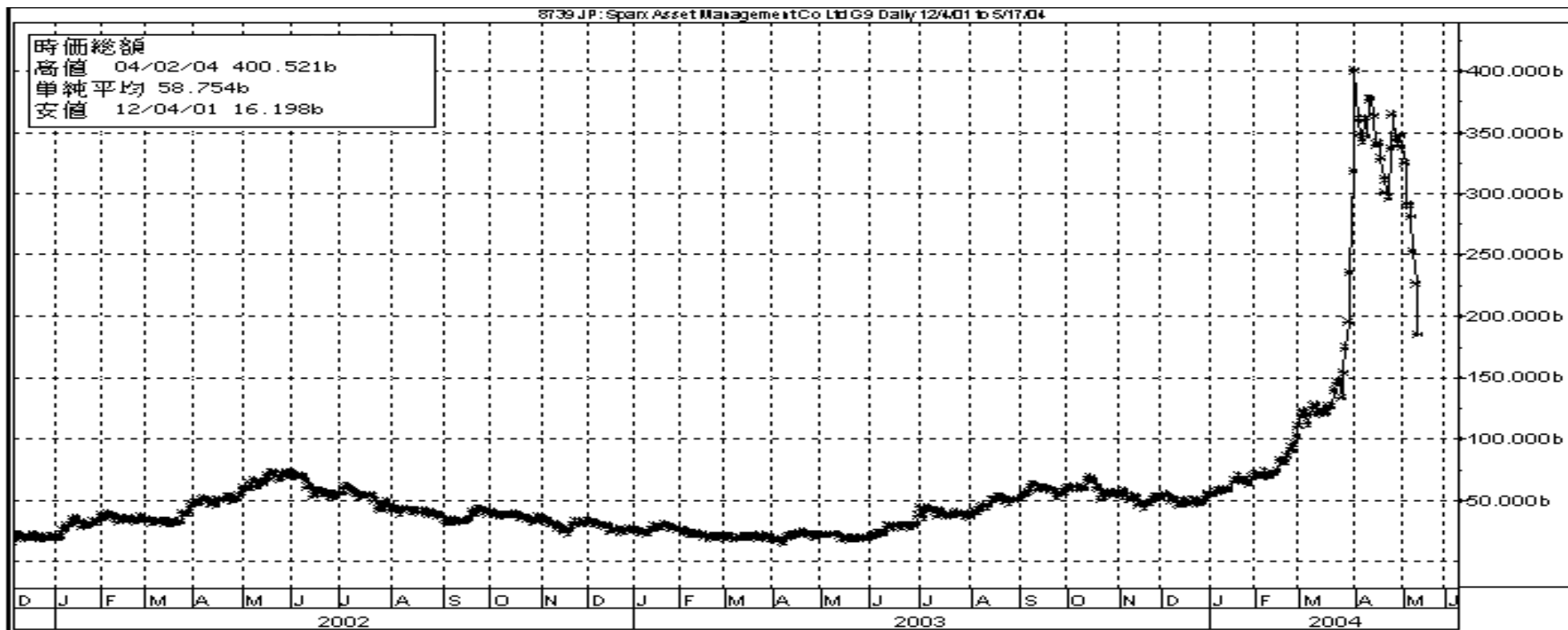
継続的成長を目指す上での課題

1．スパークス・グループの成長を担う人材の確保と育成

2．M&Aも含めた財務戦略の検討

3．組織インフラ、ITインフラの促進

スパークス (8 7 3 9) 時価総額の推移



2001年12月4日 JASDAQに上場
 初値 (分割調整済) 42,500 円
 終値 (分割調整済) 45,000 円
 時価総額 約161億 円



2004年5月18日
 終値 (分割調整済) 395,00円
 時価総額 約1,641億 円